

たけら

TAKUSUI
No. 717

7

July.2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



明石浦漁協の競り(明石市)

各団体の総会終わる

森 武美氏 旭日双光章お祝いの会 開催

《今月の海上安全標語》～ 来年には義務化されます ～

これまで、一人で操業する漁業者に着用が義務付けされていたライフジャケット。来年からは暴露甲板で作業をする人全員に義務付けされます。違反した際は、もちろん処罰の対象。自動車のシートベルト同様、早めに習慣づければ気にならないかも!?

義務化前 習慣づけましょ ^{ライフジャケ} LJ では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる。)

趣味変遷

兵庫県農林水産局水産課資源増殖室 漁場整備班 班長 中西 寛文



皆さんこんにちは。さて、私事ですが兵庫県水産職として勤務してから30年近くが経ちました。1日は長く、30年は長いようで短いような妙な感覚です。直接仕事とは関係しませんが、就職してからの趣味の変遷を背景も含めながら振り返ってみました。

就職した頃は、スキーやテニスが行われており、テニスは佐野漁協の野添さんをコーチに招きナイター練習をしました。基礎から学ぶことができてとても充実していました。ナイター設備やオムニコートなどの施設整備が盛んで勢いのある時代でした。その後、仕事の関連もありスキューバダイビングを始めました。沼島で夜光虫の赤潮の中を潜ることがあり暗がりの海中で上下の感覚がなくなったのを覚えています。経済的に続きませんが、スキューバはライセンス講習、機器の販売、観光地の幹旋と裾野の広い産業で今でも根強い人気です。震災後は夜食が進み太りだったので自転車をはじめました。ランニングに比べて楽に遠くへ行け、景色がどんどん移り変わるので一気にはまり、登りの楽しさも味わうことができました。残念ながら現在は腰痛などであまり乗っていません。自転車は15年位の周期でブームが来ており、今のブームは女性の進出が目覚ましいようです。一方、冬のスキーはカービング板やファット板の登場で簡単に回る、新雪でも大回りができるなど楽しみ方が増えました。東北震災後の節電ではリフト制限や、御岳噴火では来客減少のスキー場を助けるために他県スキー場が共通券を発行するなど互助が起きました。現在のゲレンデは団塊世代の復帰スキーヤーが大勢を占めるとともに、六甲人工スキー場では中国や韓国からの来客が珍しくありません。一方で兵庫を含む全国200近いスキー場では19才のみ無料の取組(雪マジ19)も見られます。別業界ですが同じような課題に取り組んでいます。

振り返ると体を使う趣味ばかりですが、これからも体調や社会背景と折り合いをつけて続けていきたいと思えます。

CONTENTS

No.717 July. 2016

- 2 ようこそ
- 3 3団体総会 (JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・兵庫県漁業共済組合)
- 4 兵庫県JF共済推進本部通常総会
兵庫県漁業信用基金協会通常総会
兵庫県内海漁船保険組合通常総代会
- 5 播磨漁友会通常総会
兵庫県機船底曳網漁業協会通常総会
- 6 淡路漁協職員協議会通常総会
播磨地区漁協職員協議会通常総会
播磨地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
- 7 但馬地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
兵庫県漁民物故者合同供養祭
- 8 森 武美さん旭日双光章受章お祝いの会
- 9 特別寄稿
古い船には新しい水夫が 乗り込んでゆくだろ
- 10 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会視察研修会
- 11 「高砂あなごの今後を考える」フォーラム
淡路市水産祭
- 12 海の子作品展作品募集
- 13 海の事故ゼロキャンペーン
県立水産技術センター見学会・研究発表会のご案内
- 14 命を守る運動海難防止講習会
海難事故をなくそう
- 15 兵庫JCC通信
- 16 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「明石浦漁協の競り」(明石市)

写真は、JF明石浦の競りの様子。

向こうで、多くの仲買人らが集まって競りが行われるなか、水槽では漁師の奥さんたちが、ご主人や息子さんが獲ってきた魚をカゴに仕分けて競りに出す準備を行います。ここでは作業のほかに、結婚して他地区から来た人に先輩が仕事を教えたり、待機中に様々な情報交換を行ったりする大切な場所でもあります。

日々の作業以外にも、浜の掃除や魚食普及活動などを担う女性の皆さんが、しっかりと支えることで浜は成り立っています。



平成28年度 3団体総会が開催される

JF兵庫漁連
JF兵庫信漁連・
兵庫県漁業共済組
合の3団体による
合同総会が、6月
28日(火) 明石市
内のホテルにて開
催されました。

臨時総会、JF兵庫信漁連と兵庫県漁業共済組合は通常総会で、JF組合長、系統団体のほか、知事をはじめとする県の関係者などあわせて約80名が出席しました。



来賓挨拶を行う
兵庫県 井戸 敏三知事



主催者挨拶に立つ
JF兵庫漁連 山田 隆義会長

JF兵庫信漁連

山田 峰人会長の挨拶の後、JF南淡橋本 昌和組合長を議長に選出し、議事が進められました。平成27年度の事業報告では、中期経営計画の初年度として系統組織の強みを活かした事業展開を行ったこと、店舗機能の再構築を図ったこと、和歌山信漁連との統合が報告されました。28年度事業計画では、引き続き中期経営計画の実現を目指し「原点への回帰」と「経営力強化」を経営方針に漁業系統金融機関として存在意義を発揮するよう事業展開を行うこととし、「笑顔と真心の窓口にする」、「浜のニーズに 대응する」、「協同」と「協働」を掲げる、「安心と有利を提供する」の4つの理念で取り組むとしました。



JF兵庫信漁連 山田 峰人代表理事会長

兵庫県漁業共済組合

川越 一男組合長は挨拶で「漁業共済事業、地域共済事業とも前年を上回る実績であった。収支は事業部門、管理部門ともに黒字となり剰余金も計上できた。今後も『ぎよさい』と『積立ぶらす』の一層の定着に努めていく」とされました。この後、平成27年度の事業報告をはじめ、平成28年度事業計画などが上程されました。28年度事業計画は、普及推進全国運動「しっかり加入で安心経営」の最終年度であることから、①全国運動に呼応した取組み②中央・地方一体的推進活動③系統各団体・行政との連携④広報活動の活発発展⑤掛金助成などの事業活用⑥研修活動の充実強化と組織活性化⑦個人情報保護の強化を行い、本年度加入目標金額を漁業共済事業116億2,766万円、養殖共済4億8,717万円、特定養殖共済106億3,200万円、地域共済事業5億8,526万円、積立ぶらすの漁業者積立金額を6億3,500万円としました。



兵庫県漁業共済組合 川越 一男組合長理事

JF兵庫漁連

共通役員制を採用するJF兵庫漁連、JF兵庫信漁連、兵庫県漁業共済組合は任期満了に伴う役員改選議案を3団体一括上程として諮りました。

審議の結果、JF兵庫漁連代表理事会長にJF林崎 田沼政男組合長、JF兵庫信漁連代表理事会長にJF室津 中川 照央組合長が就任しました。



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長に就任した田沼 政男氏



兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長に就任した中川 照央氏

なお、新会長就任挨拶と3団体役員の名簿につきましては次号掲載いたします。

平成28年度 兵庫県JF共済 推進本部通常総会開催

6月17日(金)、明石市内のホテルにおいて、兵庫県JF共済推進本部(戎本 裕明本部長)は平成28年度通常総会を開催しました。

開会にあたり、戎本組合長は挨拶で、熊本で起きた地震へのお見舞いを述べた後「本県でも昨年度は風害事故があったが、共済金の支払いなど速やかな対応が出来たと思う。しかし、補償対象額20万円以下で支払対象外となったケースも少なくない。今後、対応を検討するとともに、平成28年度は3カ年計画の最終年であり目標達成に努めたい」と話しました。

この後、来賓として県水産課 小林 孝司課長、共水連本所 松井専務、共栄火災神戸支店 樽井チームリーダーが順次祝辞を述べた後、戎本本部長が議長となつて議事が進められました。

審議の結果、提案された4議案は全て原案どおり全会一致で可決されました。

最後に山田 隆義本部長が「近年、大きな地震が相次いで起こっている。自分の命は自分で守るという意味でも、備えは必要である。もう一度、共済事業について見つめ直してもらえれば」と挨拶し、締めくくられました。



山田 隆義氏が理事長に就任 ～兵庫県漁業信用基金協会が通常総会を開催～



ました。

また、総会後の理事会において、5月17日に急逝した吉岡 修一理事長の後任として山田 隆義副理事長が理事長に、小磯 富男理事が副理事長に就任しました。

吉岡氏は昭和63年に当会監事に就任し、その後、平成2年に理事に、平成15年に理事長に就任され、28年間当会運営にご尽力いただきました。今後の協会運営を見据え、来年度の全国協会広域合併を積極的に進めておられました。そのご遺志を継ぐべく、役員一同いっそうの努力をはかって参ります。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(文：兵庫県漁業信用基金協会)

兵庫県漁業信用基金協会は、去る6月17日(金)グリーンヒルホテル明石で平成28年度通常総会を開催しました。会員並びに関係団体より多数の皆様にご出席いただき無事全ての議案が可決決定され

兵庫県内海漁船保険組合

平成28年度 通常総代会開催される

兵庫県内海漁船保険組合(山田 隆義組合長・JF神戸市)は、6月8日(水)、神戸市内のホテルにおいて「兵庫県内海漁船保険組合平成28年度通常総代会」を開催しました。

開会にあたり、山田組合長は「平成27年度事業では、管内35漁業協同組合のご協力により全船義務加入が成立し、普通保険においては、加入隻数が若干減少したものの、損害率が安定して推移したことで、昨年度並みの剰余金を計上することができた」と感謝の意を示すとともに、「平成29年4月には、漁船保険中央会を含めた統合組織として『日本漁船保険組合(仮称)』が設立されるが、漁業者等に対するサービスが低下しない強固な組織作りを目指す」と報告しました。

続いて、来賓代表として県水産課 小林 孝司課長から祝辞を頂いた後、総代 岡田 武夫氏(JF坊勢)が議長に選任され、提出議案「第1号議案平成27年度業務報告書等の承認について」、「第2号議案平成28年度事業計画書の承認について」、「第3号議案平成28年度役員報酬額の承認について」の3議案が審議され、全議案とも全会一致で可決承認されました。

最後に、小溝 政一副組合長(JF育波浦)が「新組織が漁業者にとってよりよい組織になるよう、山田組合長と共に尽力していく」と挨拶し閉会しました。

(文：兵庫県内海漁船保険組合)



播磨灘の漁業振興に努める

～一般社団法人 播磨漁友会が通常総会を開催～



6月29日(水)、姫路市内のホテルにおいて一般社団法人 播磨漁友会(井上仁会長…JF岩見)の第41回通常総会が開催され、16会員の代表者や、行政機関、系統団体からの来賓出席者ら30名が出席しました。

開会に先立ち、井上会長は「今年の播磨灘ではノリ養殖やイカナゴ漁が好調であり、まずまずの成績であったと感じている。かつて33組合の会員は、現在は16漁協となっているが、これからも播磨灘の漁業振興に努めていきたい」と挨拶をしました。続いて、JF兵庫漁連 田沼 政男会長が来賓を代表し祝辞を述べました。

総会は井上会長が議長を務め、平成27年度事業報告、任期満了に伴う役員の変更などの4議案が原案通り可決承認され、会長の閉会の挨拶で終了しました。

平成28年度

兵庫県機船底曳網漁業協会通常総会

但馬の基幹漁業である沖合底曳網漁業の船主を会員とする兵庫県機船底曳網漁業協会の通常総会が、7月4日(月) JF但馬会議室で会員・行政・系統団体等70名の出席のもと開催されました。本年度総会では、まず先般5月に吉岡会長が急逝されたことに伴う理事の互選の結果、新会長に川越一男氏(浜坂地区)、副会長に小林 東洋志氏(柴山地区)が選出されたことが報告されました。川越新会長は、冒頭挨拶の中で吉岡前会長への哀悼の意を表し「吉岡前会長が長年取り組んでこられた日韓暫定水域問題について、その遺志を引き継ぎ前に進んでいく」と決意を述べました。また今漁期を好結果で終えたことへの感謝と、平成28年度計画について「資源管理と高付加価値に向けたブランド化事業を強力に推し進め、また高船齢化による代船建造・船員の高齢化による後継船員労力の確保という大きな課題に対し、業界の共通する問題ととらえ協議・相談のうえ、解決の道を探りたい」と抱負を述べました。

議案では平成27年度事業報告並びに決算承認、平成28年度事業計画(案)並びに予算(案)承認の件など上程された5議案は総て原案通り承認されました。なお役員候補欠選任において、瀨本浩郎氏(香住地区・鶴松丸)が理事に選任されました。

総会後は、同協会の役員と行政・系統団

体との懇談会が開催され、「但馬の沖底が抱える課題と対応について」と題して、県但馬水産事務所 高木 英男所長が話題提供者となって活発な意見交換がなされ、但馬の漁業の実態を理解して頂ける場となりました。

課題は山積していますが、来漁期も操業安全と豊漁を祈念するばかりです。

(文：兵庫県機船底曳網漁業協会事務局)



淡路漁協職員協議会 通常総会 ～新会長に浜端正司氏が就任～

淡路漁協職員協議会（ＪＦ沼島・田村 富弘会長、会員105名）の平成28年度通常総会が、6月4日に洲本市の淡路水交会会議室で開催され、平成27年度事業報告と決算（第1号議案）、平成28年度事業計画と予算（第2号議案）、会費賦課額（第3号議案）が承認されたほか、任期満了に伴う役員改選が行われました。

主催者挨拶に続き、東根 壽淡路水交会会長から「魚佃安をはじめ漁業環境は厳しい状況にある。漁協職員の皆さんには複数の業務を担当してもらっているが、更に国の補助事業関連の事務が多くなり、淡路17組合長を代表してお礼申し上げる。各系統団体の業務にも尽力していただいております、今後も漁協業務遂行の要としてよろしくお願ひしい」との言葉がありました。

続いてＪＦ兵庫漁連突々 淳参事から、瀬戸内法改正後の取組みの重要性とあわせて、「漁船リース事業は全国で70億円の予算しかなく、兵庫は2億円程の配分見込み。50億円の要望を聞いており、これから増額圧力をかけていく必要がある。制度としては、燃油対策と漁船導入の補助により、経営安定の道ができた。職員の皆さんには大変なご苦労をお掛けしているが、頑張っていたください」との情勢報告がありました。

この後、議事に入り、3本の議案はすべて承認されました。平成27年度事業としては、11月に但馬への研修旅行（参加50名）と12月に勉強会としての系統懇談会を行ったこと、平成28年度も同様の事業を行うことが報告されました。この日の役員改選によって、新たに就任された役員の方々は、次のとおりです。

会長：浜端正司（ＪＦ洲本炬口）、
副会長：中山泰枝（ＪＦ湊）
理事：野村拓也（ＪＦ福良）、大平真民（ＪＦ一宮町）
監事：平野活（ＪＦ森）、池本直美（ＪＦ室津浦）

（敬称略）

播磨地区漁協職員協議会 通常総会 ～新会長に沢浦 博光氏が就任～

6月21日（火）、播磨漁友会館（姫路市）にて、播磨地区漁協職員協議会平成28年度通常総会が、代議員26名（委任状8名含む）出席のもと開催されました。

開会にあたり、藤田次男会長（ＪＦ西二見）が挨拶し、来賓を代表して姫路農林水産振興事務所 望月 松寿所長補佐兼水産課長、（二社）播磨漁友会 井上 仁会長、ＪＦ兵庫漁連田中健二企画経営管理室長がそれぞれ漁協職員の役割と活躍に期待を込めて祝辞を述べられました。

議事に入り、平成27年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、平成28年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案が審議され、原案通り承認されたのち、任期満了に伴う役員改選が行われ、8名の役員が選任されました。沢浦新会長より、「厳しい状況にあるが、歴史や先輩方の思いを引き継ぎ頑張りますのでよろしくお願ひします」と抱負が述べられました。

なお、総会終了後には、32年以上の長きにわたり、当職員協議会の発展に大きく貢献された藤田次男氏（ＪＦ西二見）に、感謝状と記念品が渡されました。



沢浦新会長から藤田氏に感謝状が贈られました

会長：沢浦博光（ＪＦ家島）、副会長：尾形直紀（ＪＦ林崎）・平田一典（ＪＦ赤穂市）、理事：畳谷元和（ＪＦ明石浦）・福田仁（ＪＦ江井ヶ島）・上西典幸（ＪＦ坊勢）、監事：福井基之（ＪＦ東二見）・倉田昌彦（ＪＦ室津）

（敬称略）

平成28年度

播磨地区漁協女性部連合会

通常総会・研修会

6月8日（水）兵庫県立水産技術センター大研修室にて、播磨地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

9会員のうち9会員（うち委任状出席2）46名と（一社）播磨漁友会井上仁会長、水産技術センター所長 堀豊所長はじめ来賓13名の出席のもと、平成27年度事業報告及び収支決算、同28年度事業計画及び収支予算など3議案が承認され、魚食普及天然せつげんの普及など環境問題への取組、ライフジャケット着用推進、女性の声を反映させ社会参加に務めることなどを通し、明るく豊かな漁村づくりをすすめることが確認されました。

総会のおと、姫路農林水産振興事務所 大野泰史課長補佐を講師に迎え、「おいしい魚が食べた」と題した研修がありました。この播磨地方には、水産物だけでなく野菜や調味料など美味しく良いものが沢山あり、産地の伝統的な食べ方を知ることにより、新しい発見や組み合わせも考えられるなど今後の魚食普及のヒントを学ぶことができました。その後、ＪＦ兵庫漁連指導部 宗和貴光統括役が、同漁連と神戸運輸監視部が共同で制作したDVDを活用し、海難防止およびライフジャケット着用推進について、女性部員に、より一層の理解と協力を依頼しました。

（文）播磨地区漁協女性部連合会事務局



平成28年度 但馬地区漁協女性部連合会通常総会・研修会

6月13日

(月) JF但

馬 香住支所

にて、但馬地

区漁協女性部

連合会通常総

会(村瀬 季

代子会長)が

会員39名と県

但馬水産事務

所 高木 英男

所長、JF但

馬 眞野 豊組

合長、JF浜

坂並びにJF

ぎよさい兵庫

川越 一男組

合長をはじめ

9名の来賓の出席のもと

開催されました。

冒頭、村瀬会長より「漁

家経営の安定に向け、引

き続き但馬各地区女性連

合は連携を深め積極的な活

動に努めたい」との挨拶

の後、平成27年度事業報

告、収支決算、及び平成

28年事業計画、収支予算

の各議案は滞りなく承認

されました。

総会終了後の研修会で

は、エスケー石鹸株式会

社 鈴木 浩二氏を講師に

迎え「わかしお石鹸は海



を守る」と題した研修会

がありました。この講演

を聞いた参加者は、合成

洗剤を使用することによ

る人体への悪影響や、合

成洗剤が生活排水として

完全に分解されずに海に

流れ出てしまう現実を知

り、天然油脂から作られ

た安全性の高い石鹸を一

人でも多くの人が意識的

に使用することで、漁業

環境の保全に繋がること

を学びました。

(文：但馬地区漁協女性

部連合会事務局)

第41回

兵庫県漁民物故者合同供養祭開催



今年で41回目となる 兵庫県漁民物故

者合同供養祭(主催 JF兵庫漁連)が、

6月11日(土) 和歌山県の高野山大学松

下講堂並びに慰霊塔前において厳かに

執り行われました。

会場には県内漁業関係者ら184名が

参列し、開会にあたり遺族代表の川越伸

二さん(JF浜坂)と前田順子さん(J

F福良)の手で、平成27年度中に物

故された144柱の芳名簿が祭壇に

奉納されました。主催者代表として

挨拶に立ったJF兵庫漁連 山田隆

義会長は「本県が全国有数の水産県

として今日あるのは、ここに合祀さ

れておられますご尊霊のご努力の賜

物であり、在りし日の輝かしき業績

に対し深く敬意を表します。残る

我々は力を合わせて豊かな漁場を取

り戻し、次世代に引き継ぐことを誓

います。」とされ、続いて来賓を代

表して兵庫県知事(県農林水産局

藤澤崇夫局長 代読)、JF全漁連会

長(JF全漁連 長屋信博代表理事

専務代読) から追悼のことばをい

ただきました。その後、読経の流れ

るなか、主催者、ご遺族、来賓、一

般参列者の順に焼香が行われ、JF兵庫

女性連 森武美会長から全参列者に御礼

が述べられ、供養祭は厳粛のうちに滞り

なく終了しました。

これまでに合祀されたご尊霊は今回の

144柱を含めて12、245柱となり

ました。心からご冥福をお祈りいたし

ます。

(文：JF兵庫漁連指導部)

「森 武美さん 旭日双光章受章 お祝いの会」開催

6月15日(水)、明石市内のホテルにおいて兵庫県漁協女性部連合会・JF福良主催の「森武美さん 旭日双光章受章お祝いの会」が開かれ、兵庫県漁協女性部の部員、行政・系統団体の関係者らあわせて84人が集まり、受章を祝いました。

主催者挨拶では、同連合会 井上二三枝副会長が「現在の女性部活動は、森会長が先頭に立ち、これまで地道な努力を重ねて来られたからこそ。今回の受賞は、私たちにとっても、これほど嬉しいことはない」とされ、JF福良前田若男組合長は「女性の力があってこそその漁業である。長年、女性部活動のリーダーとして活躍されてこられてきたなかでの今回の受賞



は、兵庫のみならず全国の女性部を代表しての受章である」と話されました。

来賓挨拶では、兵庫県水産課 小林孝司課長が「兵庫にとつて大変名誉なこと。今後、女性部員の大きな励みになる」、JF兵庫漁連 山田隆義会長は「家を守り、漁業を支えるのは女性であり、森会長は女性部員の意識改革に早くから取り組まれてきた」とされ、これまでの功績を称えました。

森会長は「一緒に活動してきた部員の皆さんの代わりに受け取ったものであり、皆さんのお陰で頂いたものです。誠にありがとうございました」と感謝の意を表されました。

JF兵庫信漁連 山田 峰人会長の乾杯で始まった祝賀会は、同信漁連 黒田 俊文参事が軽快な司会を務め、参加者から次々にお祝いの言葉を繋ぐなど、終始、談笑と笑顔の絶えない楽しい雰囲気になりました。

(文：兵庫県漁協女性部連合会事務局)



各地区女性部や関係者との記念撮影(写真は淡路地区)



大里前会長からもお祝いの言葉がありました

特別寄稿

「古い船には新しい水夫が乗り込んでゆくだろう」 ～兵庫県信漁連と和歌山信漁連の県域を越えた合併～」



JF兵庫信漁連
山田 峰人

兵庫県信漁連と和歌山県信漁連は、平成28年4月6日 ホテルグランヴィア大阪において、水産庁 水田部長、JF全漁連 岸会長、農林中央金庫 宮園副理事長に立会いをいただき、平成29年4月1日に立ち上げる、なごさ信漁連（JFマリンバンク なごさ）の合併仮調印式を行いました。

今後は来る6月の通常総会において合併承認を受けることとしています。この合併は、県域を越えたものとして漁業・農業系統のなかでは全国初の取組みとなります。

私は、平成16年、専務理事に就任以降、会長職6年を含む12年間にわたり役員を務めてきましたが、この間最大の課題として取り組んできたのが「広域信漁連の実現」でした。

この取組みにおける思想的背景について触れたいと思います。

平成11年1月にNHK「その時歴史は動いた」の再放送で濱口梧陵公の偉業として安政大地震における奇跡の復興が放映されました。濱口公は昭和12年小学国語教本に採択された「稲村の火」で述べられている

人命救助と併せ、巨額の私財を投じて行った復旧と将来の災害に備えた大堤防建設に対し大偉人として紹介されていますが、この事業を実現させた信念が、住民百世の安堵を図る。とするものであり、堤防完成後に再来した大地震においても被害を最小限に抑えることとなり当地のみならず海外においてもその偉業は高く評価を得ていると内容でした。

私としては、信用事業運営においてもこの精神に学び、住民(会員・組合員)百世(将来にわたる)の安堵(サービス)を図る(継続する)ための組織、体制づくりを経営理念として掲げてまいりました。

系統信用事業はこれまでの取組みのなかで、外部の人たちから奇跡の取組みと称された全国オンラインセンター立ち上げ(平成元年5月スタート)、また、金利・金融の自由化に対応する組織づくりとして進んでいる1県1信用事業体制の構築等、幾多の難題に取り組み、そして実現してきました。

しかし、現状の金融機関を取り巻く情勢の変化は我々に留まることを許してはくれません。

各県の信漁連および県一漁協の信用部門ともに現状の経営は厳しく、将来はさらに厳しくなるとの認識は一致しており、新たな経営モデルの策定とその実践方法として「広域信漁連」が有効な方法としてJFマリンバンク代表者会議においても採択されています。

しかし、総論賛成、各論においては後向き、が現状であり今後の積極的な働きかけが必要と思われまます。

て、委員長を務められた当時のJF長崎県信漁連 馬場会長が万感の思いを綴られています。

『「広域信漁連」の標準案をとりまとめました。(中略)まず検討に値されるものであるかどうかの議論が各県域において始まることになるでしょう。その結果、広域化は不可能ということになれば、もはや全国目標としての道は閉ざされ、一部の県域間の方策として位置付けられることにならざるを得ないと思います。私は、組織再編とは、新しい方策をとることで勝ち得る成果が見込めるのであれば、これまで積み上げてきた仕組みを捨てる覚悟も必要だと考えています。』

私もメンバーの一員として思いは同じであり、各県の代表者としての責任は、新たな体制に向かうことも、現状に留まる判断も将来への結果に対する同等のものがあろうと思っています。

この度の和歌山県信漁連との合併は、これから具体的に動き始める広域信漁連体制に向けた、いち早い県域体制の整備だと考えています。今後、参加を予定される県域と積極的な検討が進められることになるでしょう。

さて、表題の「古い船には…」について触れさせていただいて締めくくりたいと思います。

私と同年代の方々にはこの言葉に覚えのある人も多いと思いますが、1970年に吉田拓郎が発表した「イメージの詩」の歌詞の一部ですが、その全文を紹介します。

JF全漁連信用部

会が立ち上げた「広

域信漁連実現のため

の特別審議会」が平

成26年8月に取りま

とめた答申書におい

て、委員長を務められた当時のJF長崎県信漁連 馬場会長が万感の思いを綴られています。

古い船には新しい水夫が

乗り込んでゆくだろう

古い船を今動かせるのは

古い水夫じゃないだろう

何故なら古い船も

新しい船のように

新しい海へ出る

古い水夫は知っているのさ

作者の意図は確認できませんが、現状の信漁連が目指すべき方向として私なりにこの詩を受け止めています。

私たちの系統事業は、長い歴史と先人の努力により、その仕組み(古い船)を継続していますし、今後も守り続けていく必要があります。

しかし、その守るべき仕組みを将来に引き継ぐためには、現在の手法(古い水夫)のみに頼るだけでは、今後の課題に対応できないのは明白でしょう。

規模的には零細な系統金融だからこそ、どこよりも研ぎ澄まされた現状認識と先を見据えた対応方法に取り組むことが必要と考えています。そのためには、新しい組織(新しい水夫)への取組みが必要であると確信しています。

和歌山県信漁連とともに立ち上げる新信漁連は、まだまだ広域信漁連と呼べる組織体とは思っていません。今後、着実に進んでいく広域体制への県内整備であるとともに、その体制におけるリーダーシップを発揮できる組織づくりと考えています。

私は、平成28年度通常総会において任期満了により退任いたしますが、新体制により策定される、新しい信漁連のビジネスモデルが会員・組合員に愛されるものとなることを、心よりご期待申し上げ終わりとします。

※編集部注…寄稿を頂いた時点での所属で掲載しております。

兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会

6月7日(火)、ラッセホールにおいて、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』が、JF組合長と県議員、関係者ら約100名が参加のもと開催されました。

この懇談会は、燃油価格の高騰、漁業後継者の減少、魚価の低迷など漁業者だけでは解決できない課題が山積する中、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的として毎年開催されています。

主催者並びに来賓の挨拶の後、今回の懇談会の一部が組合長会議として扱われ、漁業者から要望が多い、漁船リース事業や機器等導入事業の予算の大幅拡充を求める特別決議が、満場一致で採択され、あわせて、関係先へ要望活動を展開していくことも確認されました。

懇談会では、3つのテーマについての発表をもとに意見交換がなされました。

まずはじめに『「香美町とと活隊」の取組みについて』と題して香美町とと活隊 隊員 和田耕治氏(但馬漁協 柴山支所長)、『姫路とれとれ市場』について』と題して坊勢漁業協同組合 代表理事 組合長 岡田武夫氏、『パスカル三田』への出店について』と題して兵庫県漁業協同組合連合会 広報部 次長 田中久善氏より話題提供がありました。

その後の意見交換では「地元の魚の良さをPRするため、様々な形で一般消費者に普及を図って頂いているが、需要と供給のバランスによっ

て価格が変動する。供給が減れば値が上がり、増えれば値が下がる。経営と普及活動のバランスをとらなければならぬ」「魚の調理は難しいと思っている人が多い。例えば、焼き魚はグリルを使わなくても、フライパンで簡単に調理できる。むしろ、フライパンで焼いた方が、脂が落ちてしまわないので、身質がバサバサにならず、おいしく出来る。こういったことを消費者にきちんと伝えていくことが重要である」等の意見が出されました。

懇談会の終了後は、県議の方々とJF組合長との情報交換会となり、当日の講演テーマをはじめとして地域が抱える問題等についても活発に意見や情報の交換がなされ、盛況裡のうちに閉会となりました。

(文：JF兵庫漁連指導部)



摂津播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会 視察研修会



摂津播磨地区漁業協同組合連合会青壮年部連合会(大西正起会長：JF伊保)は6月14日(火)、15日(水)の2日間、兵庫県水産会館(明石市)で視察研修会を行い、部員をはじめ県・系統団体の関係者あわせて約40人が参加しました。

はじめに大西会長から「県内での研修は3年目。今年の内容は、組織同士の横の繋がりの重要性と命の大切さをテーマに、『海上安全』としたので、しっかりと学んでほしい」と挨拶がありました。

最初の研修では、兵庫漁連組織統括本部 田中稔彦本部長と指導部 北村 伸也主任から「JF兵庫漁連について」の内容で講義があり、協同組合の成り立ちや性格、株式会社との違い、漁業協同組合の歴史を振り返りなど、協同組合について広く学ぶことが出来ました。

翌日は、海上安全講習会と題し、神戸海上保安部 戸川義徳専門官から海難事故の発生事例など、JF兵庫漁連指導部が作成したライフジャケット着用推進DVDの視聴、最後にロープを使った縄梯子作製実習があり、参加者は説明書を見ながら素早く完成させていました。(海上安全講習会は14ページに関連記事を掲載しています)

(文：摂津播磨地区漁協青壮年部連合会事務局)



縄梯子作製にチャレンジする参加者



協同組合について講義を行った田中本部長・北村主任

「高砂あなごの今後を考える」フォーラム 開催 ～高砂2JFの漁業者がパネリストとして参加～



6月28日(火)、高砂市のキッコーマン高砂工場において「高砂あなごの今後を考える」フォーラムが約150名の参加者が集まるなか開催されました。

このフォーラムは、地元産アナゴを使って高砂市を活性化させようと平成25年に設立された高砂あなごマーケティング研究会の主催で、今回は、地元産アナゴが少なくなってきたなか、今後どのように街の活性化につなげていくのかを考えるきっかけとなればと企画されました。

この日は、キッコーマン高砂工場の見学、市内でアナゴ料理を提供する飲食店から提供された数種類のアナゴを使った弁当を楽しんだ後、作家玉岡かおる氏による「ふるさとの味を誇れる未来に向けて 伝えよう高砂の食の歴史と想い」と題した記念講演がありました。

高砂市と所縁のある玉岡氏は、高砂の歴史や食文化に触れながら「ふるさとの味は匂い、音や色など五感で味わうものであり、高砂のアナゴ料理がそれではないか。ここは、謡曲「高砂」の地なので、アナゴを結婚式



アナゴの食文化について話す玉岡氏

の祝い料理に使うといったストーリーが描けるのでは」といった提案がなされ、会場は大きな拍手に包まれました。

続くパネルディスカッションでは玉岡氏をコーディネーターに、高砂漁協水産研究会 本浩次会長、伊保漁協水産研究会 大西正起会長ら6名がパネリストとして壇上上がり意見を交わしました。両会長は揃って「アナゴが獲れなくなった」とされたうえで、松本会長が「昔は沢山獲れたので、アナゴ休み」として漁を休んだ。今は網目を大きくするなど対応しているが(アナゴは)増えてこない」とされ、大西会長は「漁獲が減り、漁業者の減少も進んでいる。だからといって、新しい人が就業するにしても厳しい世界ではある」と漁業の現状を会場の参会者に訴えました。他に、近畿大学富山実験場 山田伸一実験場長補佐からアナゴの畜養試験の方法や今後の可能性などの意見も出され、参加者は熱心に聞き入っていました。



漁業の現状を訴える松本会長(左)と大西会長

淡路市水産祭 開催

梅雨の晴れ間に
約3,000人が集まる

淡路市水産振興協議会(社領 弘会長・JF一宮町)主催による淡路市水産祭が、6月18日(土)、市内の尾崎漁港で開催され、新鮮な地元の魚を求める大勢の人で賑わいました。



同祭りは、昨年からの協議会が、地元の魚をもっと淡路市民に知ってもらおうと、東浦地区・西浦地区と場所を交代して開催するもので、新鮮な魚が格安で販売されることから人気を博しています。

この日は、開始30分以上前から鮮魚を買い求める来場者が長い列を作ったほか、市内9JFによる鮮魚・加工品を扱う物販コーナーや、タコ飯、ハモ汁の振る舞いに大勢の人が集まり、梅雨時期を感じさせないほどの晴天に恵まれるなか、約3,000人が訪れ、盛況のうちに終わりました。



絵画
・
作文

平成28年度ひょうご海の子作品展のご案内

応募締め切り平成28年9月9日(金)

県下の小・中学生の皆さんに海を愛し、美しく豊かな海を守ることの大切さや漁業に関する関心と理解を高めてもらうため、「絵画」と「作文」を募集しています。

あなたの目から見た漁業や漁師さんのこと、漁港や市場の様子、そして海の様子など、「漁業」と「海」を自由な発想で表現してみませんか？ たくさんのご応募をお待ちしています。

応募方法

応募対象：県下の小・中学生

応募作品：絵画と作文の2部門

○絵画 作品の大きさは60cm×45cm以内(四つ切推奨)

※ポスターや立体的な作品は不可。

○作文 400字詰め

小学1・2年生は1~2枚程度/小学3年生以上は2~3枚程度

※本人の直筆でない作品については、審査対象外としますのでご注意ください。

応募者全員に
記念品を贈呈します。

題 材：「漁業」や「海」

提 出 先：作品は、通っている学校、または直接事務局まで提出してください。

- 作品の裏面右下に、必ず応募票を貼って下さい。
- 作品はこれまでどこにも応募していないもので応募してください。
- 応募作品はお返しいたしません。

(応募作品の著作権はすべて主催者側に帰属するものとします。)

入 賞

兵庫知事賞	全作品の中より1点
兵庫県教育長賞	同上
JF兵庫漁連会長賞	全作品の中から計2点
JF兵庫女性連会長賞	同上
農林中央金庫大阪支店長賞	同上
JF兵庫信漁連会長賞	同上

佳作

- ※ 絵画部門入賞作品については、展示予定となっております。
- ※ 絵画部門上位10作品は、全国海の子絵画展に出品します。
- ※ 作文部門入賞作品については「海の子作文集」を作成する予定です。
- ※ 予期なく変更する場合がございますのでご了承ください。
- ※ 詳しくはJF兵庫漁連のホームページ「ひょうご海の子作品展」をご覧ください。

(お問い合わせ)

JF兵庫信漁連(営業部業務課：担当 水橋・仲畑)

〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号

TEL 078-919-1210 FAX 078-919-1211

【主催】JF兵庫漁連・JF兵庫女性連

【後援】兵庫県・兵庫県教育委員会・JF兵庫信漁連・

(一財)兵庫県水産振興基金・共水連兵庫県事務所・
農林中央金庫大阪支店



全国海難防止強調運動 (7/16~31)はじまる!

海の事故ゼロキャンペーン

2016 7/16・31
全国海難防止強調運動
海難①への願い

重点事項3 ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

万一船が転覆した場合、海上に浮くことで命を助かる可能性があります。

1 ライフジャケットの常時着用 2 適切な位置での乗船 3 高い緊急通報機能の活用

海上保安庁へのお問い合わせは、随時随所の官舎へ

1 第一 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
2 第二 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
3 第三 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
4 第四 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
5 第五 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
6 第六 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
7 第七 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
8 第八 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
9 第九 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118
第十 海上保安庁本部 (総機) 電話 03-347-0118

JAPAN COAST GUARD

海の事故ゼロ
ZERO
キャンペーン

大好きな海で
事故をおこしてほしくないから、
皆で目指そう! 海の事故ゼロ。

2016年度
三時海の日

重点事項1 小型船舶の海難防止

重点事項2 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

重点事項3 ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

2016 7/16・31
全国海難防止強調運動
海難①への願い

海難①への願い

重点事項1 小型船舶の海難防止

出航する前には
しっかり確認を!!

エンジンスタートのエンジンオイルの確認、出航前には

- エンジンオイル
- バッテリー電圧
- 冷却水 など

の検査を実施し、入念な確認を心がけましょう。

平成26年7月1日から「乗船前の検査義務違反」「見張りの実施義務違反」が行政処分の対象となります!

乗船前、乗船中の禁止
乗船前乗客の乗上
乗客の自己保護
ライフジャケットの着用
乗船時の乗客
乗船時の乗客救助

重点事項2 見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

海難で一番多いのが衝突であり、船舶間見張りや手すり「不適切な見張り」が原因です。

1 常時適切な見張りの徹底
見張りの徹底や船舶間見張りで見張りを怠ることは、海難の原因となります。

2 船舶間コミュニケーションの促進
十分に船舶間コミュニケーションが確保されている場合は、船舶間の衝突を未然に防ぎ、海難を防止します。

- 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- 国際VHFや汽笛信号などを活用する
- AIS情報の活用と正しい情報の入力

なんととっても見張りが重要です!!

県立水産技術センター見学会・研究発表会のご案内

兵庫県立水産技術センター（明石市二見町南二見22-2）では、8月9日（火）に下記のとおり見学会及び研究発表会を開催します。多数のご来場をお待ちしています。

【見学会】9:30~12:00

水産のお話と施設見学ミニコース（10:30~1回限り。1時間）、魚拓づくり、煮干しの解剖、プランクトン観察を実施します。

【研究発表会】14:00~15:55

ホタルイカの漁場探索、ノリ漁場への栄養塩類供給手法、マダイ出荷の品質向上について、最新の調査研究成果が報告されます。

プログラムなど詳細は<http://www.hyogo-suigi.jp>のイベント情報、または当センター普及担当（078-941-8602）までお問い合わせください。

命を守る運動 海難防止講習会

～平成28年度 摂津播磨地区
漁業協同組合青壮年部
連合会研修会で開催～



縄梯子づくりに挑戦しました



様々なライフジャケットの試着も行いました

に協力し合って海難を防止するとともに、見張りをしっかりと行ってほしい。また、同海峽は朝夕の交通量が多く、AISは有効な手段の一つとされました。続いてJF兵庫漁連指導部が作成したライフジャケットト着用推進DVDの視聴後に、ロープを使った縄梯子作製実習がありました。これは船から落水した際、船上に上がることが難しいことから企画されたもので、ロープ一本で簡単にできる縄梯子づくりに参加者全員で取り組みました。



6月15日(水)に摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西正起会長)の視察研修会において、「命を守る運動」「海難防止講習会」が、同漁青連、関係系統団体の主催で開催され、部員、関係者約50名が参加するなか開催されました。

まず、神戸海上保安部 戸川 義徳専門官から「漁船海難防止について」明石海峽付近の操業状況と最近の事故事例」と題した講演がありました。戸川専門官は、海難事故の発生状況、明石海峽付近での海難事例などを紹介したうえで、「他船とは互い

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを
着用しよう!

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上



固型式ライフジャケット
モデル：摂津播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会
副会長 福山 貴久さん(JF林崎)

します。自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください!

～安全をサポート～
浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



モデル：摂津播磨地区 漁業協同組合 青壮年部連合会
監事 竹内 佑騎さん(JF相生)

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

一日も早い復興を —熊本地震 JAグループ支援活動—

JAグループ兵庫

全国のJAグループは、4月に発生した熊本地震に対する物的・人的支援や募金活動を行っています。

現地では農家や選果場の職員が被災し、人手不足が深刻です。JAグループの役職員が協力して「JAグループ支援隊」を結成し、出荷を迎えた農産物の収穫、選果や箱詰め作業等を行いました。本県からはJA・連合会の職員23人が参加。現地の組合員やJAから、支援隊の取り組みによって営農意欲が復活した等の声が寄せられました。

また、JAグループ兵庫は募金活動に取り組むとともに、JAグループ熊本の災害対策本部に見舞金100万円を贈りました。JAグループ兵庫支援隊に同行して6月2日、熊本県の対策本部を訪れたJA兵庫中央会の浜田充専務は「兵庫県は阪神・淡路大震災で被災し、全国から支援をいただきました。今度は支援する立場であり、被災地の一日も早い復興を願っています」と話しました。



◀トマトの選果を行うJAグループ支援隊
(日本農業新聞提供)



▶見舞金を手渡す
浜田充専務(左)

減塩で健康に

たじま医療生活協同組合

4月28日(木) ろっぽう診療所近くの新田地区公民館で「減塩料理教室」を行いました。健康チャレンジスタート集会のこの企画に、21人が参加しました。

管理栄養士の指導のもと、10人ずつに分かれて「豚薄切り肉の野菜巻き」「ブロッコリーのおんかけ」「豆腐入りだんご」を作りました。手狭なテーブルでの調理でしたが、それぞれ分担して手際よく進めました。豚肉の野菜巻きにはかぼちゃ、パプリカ、ピーマン、えのきと、色とりどりの野菜がたくさん入り、見た目にも鮮やかでした。ブロッコリーのおんかけは、生姜がよくきいていました。団子は白玉粉に豆腐を混ぜたものでしたが、豆腐が入っているとは思えない食感でした。

「こんなにおいしいのに塩分控えめとは思えない」「簡単だから、すぐに作れそう」といった感想が聞かれました。

日本医療福祉生協連は、1日の塩分摂取量を6g未満にする「すこしお生活」をすすめています。少ない調味料でおいしく食べる工夫をして、健康的な食生活を心がけます。



◀手際良く料理が進みます



▶減塩で美味しい料理が
出来ました

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

服装の歴史

◆「きもの」というのは広い意味では衣服全般のことになるが、狭義では小袖形式の和服を指している。和服が今の形になるまでには何度かの曲折があった。飛鳥時代に中国から移入された唐風の様式が、平安中期に和風化されて、鎌倉期で簡略される過程において、今の小袖形式の原型が出来たといわれている。桃山から江戸時代に庶民のものとして広く一般化されたそうだが、日本人の衣服は如何にして成り立って来たか。服装の歴史を辿るため、服飾に関する著作を何冊か読んだのである。

◆『魏志倭人伝』にいう。倭人の衣装は「一枚の布に穴をあけ頭を通して着る」とあり、極めて簡単な「貫頭衣」で、これが日本の服装史の一頁目である。四世紀に中国の胡服（こふく）と呼ばれるものが伝わった。仏教の伝来と共に隋（ずい）の様式を取り入れて、全体的に中国風であったようだ。奈良期には冠や付属品・衣装に至るまで、細かな定めが作られ貴族社会の服装を統一し「衣冠束帯」の形が定着、これが『制服』のはしりといえそう。和服は、この中国風の衣装が基になっている。

◆都が平安京に遷って、より日本化が進んで行く中で、今の宮中の礼服に見る優雅な形式が完成される。そして貴族から武家を中心の鎌倉／室町時代になると「狩衣（かりぎぬ）」が考えだされ、活動的な形へと変化してゆく。十六世紀になって、やっと小袖の時代を迎えるが、今に言う「きもの」のことである。和服の代表のような「着物」も、長い年月の間に多くの人の知恵が積み重なって生まれたもので、日本人の体型に合った衣装として、動き易い和装なるものが考え出されたようである。

◆明治から洋服が一般化するに及んで、昭和・平成と和服は極度に減少の一途を辿り「ゆかた・晴れ着」の範囲にとどまっている。女性の服装が和装から洋装に変わったのは、関東大震災とその後の百貨店の火事が大きな契機となっている。大震災を伝える惨状写真には裸体の女性が写っており、デパートの火事では裾があらわになるのを恥じて、飛び降りるのを躊躇ったため多くの女性が焼死した。それが洋装化へ拍車をかけ、和装が激減したのである。今の服装は全て外国の真似事であり、流行を追う事に終始しているように思え、少し情けない気はするが、日本人らしい服装とは一体何だろう。ざっと辿った日本人の服装の歴史である。

大輪田塾だより

6月は2回開講しました

6月の大輪田塾は7日（火）と21日（火）の2回開講されました。

7日は「漁業法概要」で、県水産課漁政班 西野 英樹主幹、峰 浩司主査から、漁業法の内容や漁業権の成り立ちのほか、海区調整委員会や兵庫県漁業調整規則などについて詳しく解説がありました。

21日は2講座がありました。「ひょうご地魚推進プロジェクト」については、JF兵庫漁連広報部 田中 久善次長から、コブこうべやイオンと

取組む県内水産物販売の経緯や手法を学んだほか、SEAT-CLUB（シートクラブ）の取組みについても話を聞くことが出来ました。また「タンザニア・ザンジバル島におけるカタクチイワシ漁・漁法・加工・流通について」と題した講座では、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究室 藤本麻里子研究員から、インド洋に浮かぶタンザニア連邦共和国のザンジバル島で、近年、急激に需要を伸ばしているカタクチイワシの煮干についての調査内容を紹介されました。初めて聞くアフリカの漁業の話に、塾生は最後まで熱心にメモを取って聞き入っていました。



数名の修了生も聴講した田中次長の講義



スワヒリ語も紹介された藤本研究員



多くの塾生が受講した「漁業法概要」